

卒業の準備 その5

式辞

卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。磐城高等学校での学習を修め、新たなそれぞれの進路へ向けて、君たちが今日この日に旅立つことをこの上もない喜びと感じます。

また、本日出席されています保護者の皆様、ご子息ご息女が、高校生活を全うし卒業の時を迎え、国家の主権者としての旅立ちを心から祝福いたします。

卒業生の皆さんが生まれてからのこれまでの十八年間は、人類が21世紀の時代を迎え、次の世紀へ進み始めた時代でありました。2001年のニューヨークでのワールドトレードセンタービル事故や、2011年の東日本大震災及び原子力発電所事故といった大きな障壁が立ちはだかりながらも、i p s細胞やAIに代表される新しい科学技術発展や、スマートフォンの開発等による大きな生活の変化が目まぐるしく展開した十八年間でもありました。

民族と宗教、政治と国家、アカデミズムと効率的商業主義、倫理と独善、グローバル経済と国家の枠の変容、自然災害や社会システムの矛盾といった大きな問題が顕在化し、解決がままならないうちにまた大きな問題に襲われているといったそれまでの世紀にはなかったトップスピードの変化の中に瞬時の対応を求められる時代となりました。

変えてはならないものと変えなければならないものが混在する中で、逡巡せずに論理的思考力を基にした正確な判断と粘り強い対応、豊かな表現力が求められることは周知のとおりです。

卒業生の皆さん。自分から積極的に前に出て、様々な簡単には解決することのない問いを自分のものと受け止めて、地域課題、世代課題、世界課題にいついかなる時でも挑戦して行ってください。他人事ではなく人類の未来への問いを自分に引き寄せながら、共に生きる人たちといかにつながることができるかを考え、想像力を駆使して、新たな正しい時代を先導して行ってください。この学校で過ごした日々を胸に秘めつつこの学校で学んだ、ぎりぎりのところで踏ん張りつつ決して妥協しない姿勢＝つまり磐城魂を全世界のどこでも貫き通してください。「必ずできる」「夢は必ずかなうもの」とする姿勢にこそ、目標を達成する第一歩が始まるのです。

評論家・文学者の内田樹は、白川静先生と中国の聖人「孔子」のことを語る文

章の一節の中でこう書いています。白川静先生は、立命館大学の名誉教授でいらした方で、漢字の権威であります。

「伝統は運動を持つものでなければならない。運動は、原点への回帰を通じて、その歴史的可能性を確かめる。その回帰と創造の限りない運動の上に、伝統は生きていくのである。」

このことはつまり、置き換えますと、「磐城高校とは何か」という原点の回帰を通じて、我々は、磐城高校の歴史的可能性を確かめつつ、回帰と創造の限りない運動の中で新しき伝統を形成し、その伝統は生きて輝くのだと理解できます。

同じように、もう一度、人間とは何か、社会とは何か、存在とは何か、社会貢献とは何か、生きるとは何かを考察しつつ、原点に回帰し、創造の限りない最先端に加速して無限軌道を突き詰めていただきたい。

あせらずあわてずあきらめず明日を信じることで、未来をこじ開け、栄光をつかみ取っていくのです。磐城高校卒業生には必ず花が咲きます。

そして、これからのいわき、ふくしま、日本や世界について、知性と責任を駆使しながら、人間のつながりをリスペクトし、その上に立って様々な課題を乗り越えていってください。今後の卒業生の皆さんの歩みと成功を心から願いつつ、皆さんの未来の幸福を願う教職員の心を代表し本日の式辞とし、私の最後の言葉といたします。

令和二年三月一日

福島県立磐城高等学校長 阿部武彦